

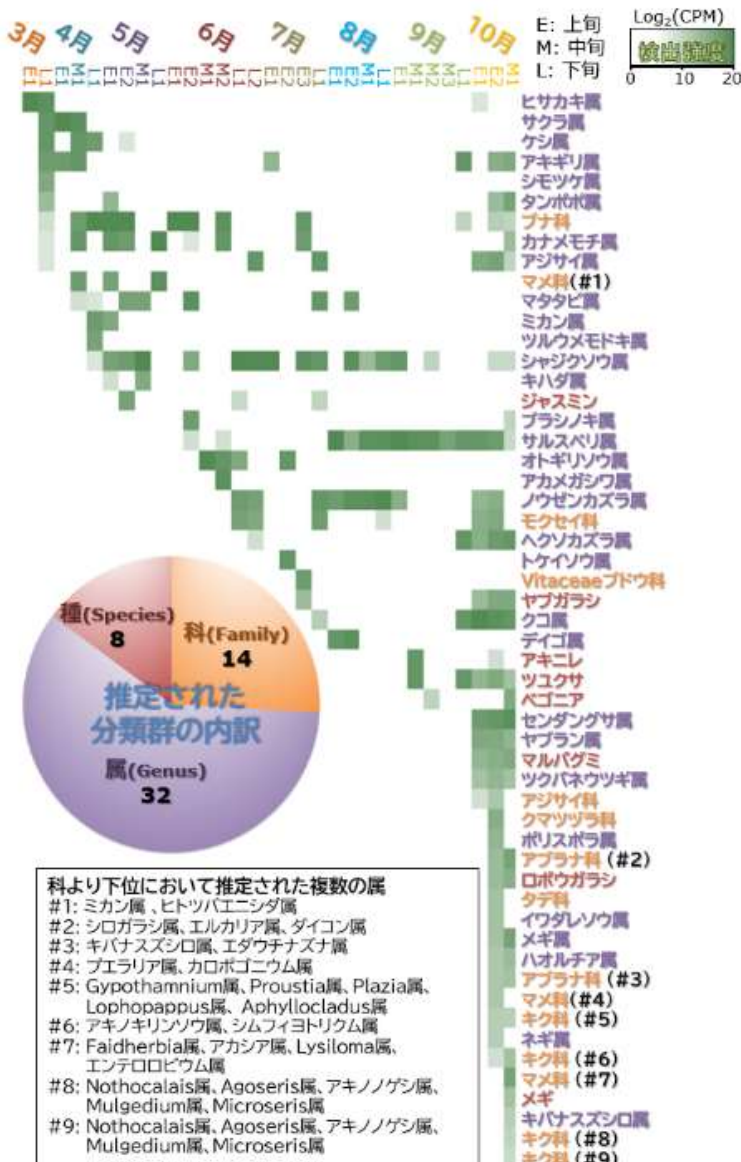
2020年度しあわせ研究

有明キャンパス屋上養蜂での  
蜜源解析

研究員 門多真理子



環境システム学科の環境プロジェクトの活動として有明キャンパスで養蜂が行われている。そこでミツバチが自身の餌として蜜と同時に集める花粉のDNAをメタバーコーディングの手法で解析し、蜜源となる



植物の種類を明らかにした。この方法では、開花時期の短いサクラ属の花粉は3月下旬-4月中旬のサンプルからのみ、一方で開花時期の長いサルスベリ属の花粉は8月上旬-10月下旬のサンプルから検出され、検出精度は高かった。また、4月にキャンパス周辺で満開になるチューリップの花粉は全く検出されず、蜜源ではないとわかった。

この方法により、周辺の植物とミツバチの共生関係を示すことができた。

この研究は2018年度のしあわせ研究費の採択を受けて実現した。また研究結果が査読付きオープンアクセスのイギリスの専門誌 BMC Research Note に掲載された。

Tanaka et al. Using pollen DNA metabarcoding to profile nectar sources of urban beekeeping in Kōtō-ku, Tokyo. BMC Res Notes 13, 515 (2020). doi: https://doi.org/10.1186/s13104-020-05361-2. より引用・転載